

本校の歩みと校歌・校章

1. 「藻岩」の歴史

この地域は、昔「八垂別（はったりべつ）」と呼ばれていた。支流まで含め、八つの沢から沢水が豊平川に注いでいたからである。明治9年、山鼻に入植した屯田兵の給与地だったが、その後入植した本州移民の手でやっと畝が入れられたという。交通の便が悪く、熊や狼の巣といわれる陸の孤島だった。

2. 学校の誕生と変遷

（1）開 校

八号の沢で開拓に励んでいた阿部勘蔵さんが、子どもたちの精神の開拓こそと東奔西走し、村の人々から物心両面の協力を得て、明治34年4月7日『公立八垂別尋常小学校』の大文字板を掲げ開校した。100年を超える歴史を刻む始まりである。

開校当時、児童は35名、大塚香橘先生が一人で担任をした。その後、4名の先生が担任を歴任し、明治42年には、初代校長として半田佳平先生が着任した。



第1回卒業生と担任

昭和16年4月1日円山町の札幌市合併による町名変更で八垂別の名称が消え、それまで本通り、四号の沢、五号の沢、八号の沢と呼ばれていたところが、それぞれ川沿、北の沢、中の沢、南の沢となり、5月16日からは『札幌市立藻岩国民学校』となった。

そして、昭和22年の学制改革により『札幌市立藻岩小学校』と改称され、今日に至る。

（2）校 歌

藻岩小学校校歌

作詞・作曲

佐藤 佐野 助
見藤 巖三
中島 正夫

一流れはきよきとよひらの
水に朝日のうつるとき
藻岩のすがたおおしくも
夕べの空にかかるとき
とおとき藻岩の学びやに
学ぶわれらは幸多し

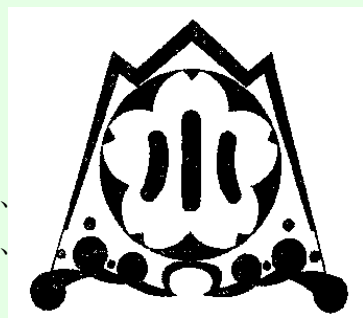
二
楽しき庭に手を取りて
日々のつとめにいそしみつ
心をおおしく育てんと
身はすこやかにきたえんと
とおとき藻岩の学びやに
学ぶわれらは幸多し

（昭和2年作詞・作曲、昭和22年改詞）

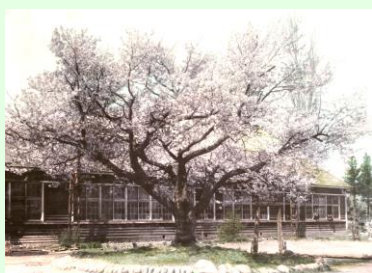
(3) 校 章

昭和 24 年、併置されていた中学校が独立した際、佐藤 佐先生により、現在の校章が創られた。

上の山型は、藻岩山を表し、自然の恵みとしっかりとした動かぬ心、真ん中の桜は、札幌一といわれた見事な蝦夷山桜の大木を表し、学校や地域と愛する心、下の波型は、豊平川のきれいな流れを表し、生き生きと活躍する心を育むことを願い、中心に小学校の「小」の字を施した。



(4) 校 木



旧校舎と当時の蝦夷山桜

校章にも描かれた『蝦夷山桜（エゾヤマザクラ）』を本校の校木としている。

校庭にあった蝦夷山桜は、開校以前から天然に生えており、春、満開の見事な姿は、札幌一と称されるほどであり、多くの児童を見守ってきた。しかし、長年を経て、次第に枯れ枝が目立ちはじめ、昭和 50 年の新校舎建

設に伴い、多くの方に惜しまれながら、伐採された。

平成 27 年、本校同窓会長柴田薫心氏より、往年を懐かしみ新たな蝦夷山桜を寄贈いただき、グラウンドに植樹され、毎年、綺麗な花を咲かせている。



寄贈された蝦夷山桜

(5) 「開校記念日」の設定

本校の「開校記念日」は、従来、前述にあった 4 月 7 日であった。しかし、近年、札幌市では、「始業式」「入学式」を全市一斉に 4 月 6 日と定め、6 日が休日の場合は 7 日に行うこととなったため、待ちに待って入学してくる新入生はもちろんのこと、進級の喜びを胸に新しい出発をしようとする多くの学年の子どもたちにとっても、始まってすぐ翌日が休業日であったり、当日が「開校記念日」のため、他の学校より一日遅れの「始業式」「入学式」を行ったりすることは、子どもの意欲にも影響があると考え、検討されてきた。

そこで、昭和 60 年代の幕開けに当たり、校名が「藻岩」と改称された 5 月 16 日を「開校記念日」（休業日）とするのが学校運営上最適であるとした。

したがって、その後は、4 月 7 日を沿革史上の「創立記念日」とし、児童には 5 月 16 日を「開校記念日」として学校の祝日であることを周知させている。

(6) 児童数と学校規模

開校から昭和 30 年頃までは、一桁の学級数にとどまっていたが、かつて、札幌の「野菜ど

ころ」として開拓史上欠くことのできない役割を果たしてきたこの地も、高度成長期における都市化のあおりにより、藻岩山の中腹、各沢の奥地、硬石山に至るまで住宅が建ち並び、一時は 38 学級、児童数 1,675 名（昭和 48 年度）のマンモス校となった。

その後、「藻岩北小学校」（昭和 48 年 12 月）、「南の沢小学校」（昭和 52 年 3 月）、「藻岩南小学校」（昭和 58 年 3 月）と 10 年間に 3 校が開校し、ほぼ現在の規模となった。

学級数は 20 学級前後で推移していたが、開校 100 年目頃より減り始め、平成 20 年度は通常の学級 14、特別支援学級 2 となった。

平成 30 年度、平成 31（令和元）年度は、通常の学級 13、特別支援学級 2、令和 2 年度は、通常の学級 12、特別支援学級 2 と学級数は減っているが、4 月 1 日現在の児童数は、平成 30 年度 330 名、平成 31（令和元）年度 351 名、令和 2 年度 365 名と少しずつ増加傾向にある。

（7）特別支援教育

「一つのつぼみが一つの花を咲かせる。どの子がどんな形の、どんな花を咲かせるのか。今日も少し大きくなった。明日も大きくなるだろう。今はつぼみだけれど。」

夢や希望の大きな『つぼみ学級』の誕生、本校屋上に設置された「愛の鐘」が地域に鳴り響いたのも特殊学級『つぼみ学級』が開設された昭和 59 年 9 月 14 日のことである。

父母、兄弟姉妹が家庭の温かさに思いをはせ、一日ひとときを子どもたちの健やかな成長に祈りを込める心の鐘、そして多くの子どもたちに愛の心を広げる『つぼみ学級』である。

そして、平成 15 年度に特別支援教育がスタートし、「特別支援学級」と名称が変わり、「校内学びの支援委員会」を設置、学びの支援コーディネーターを任命し、全校的な体制で『特別支援教育』に当たることとなった。